

科目名	地域・在宅看護方法論Ⅳ	対象学年・時期	2年・後期
講師	専任教員	単位数・時間数	1単位・15時間
授業概要	日本における保健医療福祉の動向は、要介護人口の増加と認知症および精神科疾患の増加、医療的ケア児の増加に対応するために地域包括ケアシステムが整備されている。地域に暮らす人々の「暮らすこと、生きること」を支えるためには、予防的な側面からとらえることや、対象の生活を支えるためのシステムや施策を視野にいれ、問題解決的な思考力を用いた看護実践が必要である。同時に、自宅で暮らす対象(療養者本人とその家族)の現象を捉え、即時的に看護する臨床判断能力が必要である。 本科目では、在宅の場において、対象に起こる症状や状況から健康上の問題点と解決策を考える思考力と、その場その時の状況を判断し対応する力を身につける。		
授業形態	講義、演習		
学習目標	1. 在宅看護における看護過程の展開方法が理解できる 2. 在宅看護における臨床判断が理解できる		
授業計画	1回目	授業オリエンテーション、 地域・在宅看護における看護過程の展開の特徴 紙面からの情報収集、 基礎情報シート・アセスメントシートへの記載	
	2回目	VTR(初回訪問時の様子)からの情報収集(追加)、 アセスメント、全体像の把握(関連図)、気づきのスケッチ	
	3回目	全体像の把握、看護診断	
	4回目	看護診断、計画立案	
	5回目	看護計画の立案	
	6回目	看護計画の立案 個人指導	
	7・8.回目	臨床判断 ①在宅という環境における対象と家族の予期 (訪問前の利用者情報から)、気づき(訪問時の利用者の観察から)、解釈、反応 ②看護師の頭の中をのぞいてみよう！	
使用テキスト・参考書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論2 地域・在宅看護の実践 第6版 河原加代子(著) 医学書院		
事前学修・事後学修 (学習を促進できる学修)	【事前学習】 ・看護を展開する思考技術(1年・後期)や他領域での看護過程の資料をよく読んで授業に臨むこと 課題は必要時に授業のときに伝えます。		
評価基準・評価方法	パフォーマンス評価(課題提出状況、看護過程展開の内容、臨床判断の演習評価)		
備考	事前学習・追加学習を主体的に行いましょう。		